

東海市 しあわせ村 10月30日

○調査事項 いきいき元気推進事業について

東海市では東海市健康作り食生活推進協議会に運営を依頼しトマトを使った健康メニューの開発、提供に取り組み食を通した市民の健康づくりを推進している。

蛇口からでるトマトジュースの提供をし常設、移動で年間10ヶ所のイベント1010杯提供している。またトマトジュースで乾杯条例も作っている。

平成20年に東海市は透析患者が多く比較的若い市民が多いのに不健康が多いということに気づき市長も驚いた。

そこで平成23年より「いきいき元気推進事業を開始」

運動応援メニューと食生活応援メニューを提供する事業である。毎月800～1000人登録で年間延べ6,336人利用している。しかし殆どが高齢者である。

健康ふれあい交流館の周りには、ウォーキングコースを整備してペース体感ゾーンが作ってある。ただ歩くだけでなく目標作りになるらしい。私達も体験したが、タイムを計ることによりまた挑戦したいという意欲がわいてくる感じだった。健康ふれあい交流館の中はととてもにぎわっており筋力トレーニングや温浴室は活気に満ちあふれていた。

二日目 10月31日

焼津市 汐入下水処理場

○下水道事業について

焼津市の下水処理場は、住宅の汚水が大半でファミリーレストランが一件水産加工業者が二件の利用である。他の水産加工業者は郊外に工場を作っているようだ。

汚泥処理量は5,300万円である。平成28年に脱水機を二台7億4500万で購入した。その結果2割削減したらしい。

汚泥処理は70%がセメント、30%が肥料化にしている。

下水に流れた油が冬場固まって環境閉塞が起きている。そのため油をよく使うコンビニに調査、指導を行っている。

まず管理棟に入って悪臭が無いのに驚いた。何故かと聞いてみると施設事態を密閉式にし、汚泥物をベルトコンベヤーで送っていたのを配管方式に変えたらしい。

下水処理場は全国的に過渡期にある。下水道事業はかなりお金がかかる。特に一市一事業だと負担がのしかかる。また今のままでは、市の職員は専門家でない為異動の度に大変な責務となる。人手不足などの課題もある。

そのため民間委託や国の指導のもと広域化を考えている。

### 沼津市沼津港

○「みなとオアシス沼津」に関する施策について

観光集客数は年間166万人。経済効果は市民もシビアなためわざとだしてない。

沼津市の観光の目玉である大型展望水門「びゅーお」

竣工 平成16年 総事業費43億円（県40億 市3億円）運営は上の展望部分が市、下の水門部分が県は運営している。また平成19年からライトアップも実施し年間172万人が利用している。

近くには、高い富士山と深い駿河湾に深海魚がたくさん生息している。沼津魚市場の社長でもある佐政水産が深海魚の水族館を使った。沼津港近くには「港83番地」というスポットがある。

玄関口に位置する人気スポットでこれも佐政水産が運営している。水族館、ライド型のシューティングアトラクション、回転寿司、イタリアンレストラン、カフェ、パン屋さんなどが立ち並び異国に来たように思わせるたたずまいである。外港は県東部の物流拠点及び災害時の防災拠点として大型船が安全に入港できる港作りをすすめ船舶の大型化に対応するとともに災害時の緊急輸送活動に貢献している。

産業厚生委員 眞茅 弘美